

1 年 1 組 道徳科学習指導案

授業者 鈴木 有美

1 主題構成表

主題名 みんなが使う物

資料名 黄色い ベンチ

■ 内容項目C 規則の尊重

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

■ 価値の分析

- ・人がよりよく生きていくために、集団や社会の一員として、規範を身に付けていくことは大切なことである。しかし、約束、きまり、法を守ればそれで解決ということではない。それらが存在する意義を考え、どうして守ることが大切なのか考えることが重要である。
- ・自分自身が約束、きまり、法を守るとは、所属する集団、社会の安全や安心した生活をつくることにつながる。そして、集団、社会を構成する他者とのよりよい人間関係を築いていくためにも、自分と他者がお互いに権利を尊重し合い、義務を果たしていくことが大切なのである。
- ・低学年の児童は自己中心性が強い傾向にある。したがって、公共物や公共の場所の使い方や過ごし方についての理解は不十分な点がある。まずは、児童にとって身近な場所である、学校や公園、通学路などでの過ごし方を振り返らせ、そこに存在する約束やきまりが、何のためにあるのか考えさせたい。そして、その場所を共有する自分と他者がお互いに気持ちよくなるために約束やきまりを守っていかうとする心情を育てていくことが大切である。その中で、お互いがさらに気持ちよくなっていくための工夫についても考えさせたい。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・1年生の児童は、決められた約束やきまりを比較的良好に守ろうとする。しかし、どうしてきまりを守るのかという問いに対して、「きまりだから」「守るように言われているから」「守らないと先生におこられるから」という価値に対して他律的な思考が少なくない。
 - ・学校生活の基本的なきまりを守ることの大切さは理解しているが、まだ、自己中心的な行動をすることも多い。「みんなの迷惑になることをしてはいけない」と知っていても、行動と結びつかないことがあり、指示のない場面では、社会規範に照らしたり、他者の立場に立ったりしながら自分の行動を考えることは難しい。
- (要因)
- ・悪気はないのだが、夢中になると自分本位になってしまったり、周囲の迷惑を考えずに行動してしまったりすることがある。
 - ・善悪の判断を自分で下すことができず、教師や保護者の影響が大きい。
 - ・みんなが使う物を大切にすると、互いに気持ちよく生活できるという心情に、なかなか気付けない。

■ 資料の分析

黄色い ベンチ

- ・雨降りが続き、やっと晴れた日。たかしとつおは公園へ紙飛行機を飛ばしに行き、泥だらけの靴のまま、黄色いベンチの上に乗って何度も何度も夢中になって紙飛行機を飛ばす。遠くへ飛ばすと気持ちがよく、もっと遠くへ飛ばしたいという一心で靴のままベンチへ上がり、ベンチを汚してしまう。
- ・しばらくして、女の子とおばあさんがやってくる。そのベンチに座り、スカートを汚してしまった女の子に、おばあさんが話しかける言葉を聞き、初めて自分本位な行動で迷惑をかけたことに気付き、「はっ」として顔を見合わせる。
- ・公德心の基盤にあるのは、不特定多数の他者への思いやりである。遊びに夢中になるあまり、そこに思いの至らなかった二人が何に気付いてはったのか、ふたりの思いについて考えるを通して、気持ちよく生活していくために、社会の約束やきまりを守ることの大切さを考えさせる。さらに、知識としての理解のみに終始せず、心情として「そうしたい」と、規則尊重の必要性を感じ取ることができる。

■ ねらい

みんなが使う物や場所を大切にすることは、みんなが気持ちよく生活できることにつながることに気付き、進んで約束やきまりを守り人に迷惑をかけないようにしようとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・久しぶりの晴天の中、気持ちよく紙飛行機が飛んでいく様子が夢中になる主人公を押さえ、もっと遠くに飛ばしたいあまり靴のままベンチに上がってしまった二人に共感させる。
- ・女の子とおばあさんの様子を見て、初めて自分本位な行動によって人に迷惑をかけたことに気付き、反省する二人に共感させる。
- ・「あのベンチの上から飛ばそうよ。」と誘われたらどうするのかについて、役割演技を取り入れ、よい行動をとることの心地よさを感じさせる。
- ・みんなが気持ちよく過ごすためには、どんなことに気を付けるとよいか「わたしたちの道徳」を使って考える。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問]「あのベンチの上から飛ばそうよ」と誘われたらどうするかを考えるを通して、よい行動をとることの心地よさを感じさせる。また、どんな気持ちからそうするのかを発表できるようにする。
- [表現活動]「ベンチの上から飛ばそう。」と誘われた後に続く役割演技をすることで、多様な友達の断り方に気付く。
- [学習形態]楽しそうな遊びを誘われた後に、どのように断るのかをペアで交流し合うことで、自分ならどうするかを、より主体的に考える事ができるようにする。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活「校外学習でのマナーについて考えよう」→道徳「黄色いベンチ」→学活「みんなが使う物の約束やきまりについて考えよう」約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にできるようにする。みんなが気持ちよく生活するために、規則の尊重の意味や社会との関わりについて一層考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	みんなで使う物について考える。 ○ みんなで使う物には、どんな物がありますか。 ・ 図書館の本，ボール，遊具。	・ 身の回りには、みんなで使う物がたくさんあることを意識させる。
展開前段	みんなが気持ちよく過ごすためには、どうしたらよいか考えよう。 資料「黄色い ベンチ」を聞いて話し合う。 ○ 靴のままベンチに上がって紙飛行機を飛ばしているたかしたちは、どんな気持ちだったでしょう。 ・ やっぱり高いところから飛ばすとよく飛ぶなあ。楽しいなあ。 ・ もっと遠くに飛ばしたいなあ。 ○ 女の子のスカートの泥を落とすおばあさんに気付いたたかしたちは、どんな気持ちになったでしょう。 ・ どうしよう、ぼくたちのせいでスカートをよごしてしまった。 ・ どうしよう、謝った方がいいかなあ。 ・ ベンチに靴のまま乗ったのは、いけなかったなあ。もう少し考えればよかった。 「あのベンチの上から飛ばそうよ。」と言われたらどうしますか。どんな気持ちからそうするのでしょう。 ・ やめようよ。他の所から飛ばそうよ。 ・ だめだよ。ぼくたちの靴どろどろだよ。 ・ こんな靴のままベンチに乗ったら、ベンチが汚れてしまうからだめだよ。 ・ 確かに、ベンチの上からはよく飛びそうだけど、ベンチを汚したら、ベンチに座ろうとする人がいやな気持ちになるからからだめだよ。 ・ ベンチは、みんなが座るものだから、そこに靴のまま乗るのはだめだよ。みんなことを考えないと。	・ お話のあらすじを捉えやすくするために、場面絵を用意し、板書で整理しながら読み聞かせをする。 ・ もっと遠くに飛ばしたいがために、ベンチに靴のまま乗ってしまったことに十分共感させる。 ・ 楽しいばかりで、ベンチに座る人のことを全く考えていなかったことに気付かせる。 ・ 初めて自分本位な行動によって、人に迷惑をかけたことに気付き、反省する二人に共感させる。 ・ 「あのベンチの上から飛ばそうよ。」のあとに続く行動を考える。ペアを活用し、「そうすることがよい」と知識として理解している内容を実際に演じてみることで、よい行動の仕方を学び、よい行動を取ることの心地よさを感じさせる。 ・ ペア交流後の全体交流の中で教師が誘う役を行い、断る児童に対してどんな気持ちでその行動を取ったのかについて、演じた子どもに語らせることを大切に、自分の行動の意味づけを行うことで、価値の自覚を深めるようにする。
展開後段	みんなが気持ちよく過ごすためには、どんなことに気を付ければよいか、自分の生活を振り返る。 ○ みんなで使う物を、どのように使っていますか。 ・ 図書館の本は、みんなが読むものだから、大切に読んだり、きれいにそろえたりしている。 ・ 一輪車やホッピングを、順番を守って使うようにしている。待っている子もいやな気持ちにならないし、みんなで気持ちよく使える。 ・ 掃除の後、ほうきをきちんと片付けている。	・ 具体的な体験を発表し合い、生活をより振り返ることができるようにする。 ・ 日常の具体的場面を思い起こしやすいように、写真などを用意しておく。
終末	今日の学習から分かったことを書く。 ・ みんなが使う物を、どのように使えばよいかを考え、「わたしたちの道徳」1 2 3 ページに、自分の考えを書く。	変容の見届け ・ みんなが気持ちよく過ごすためには、自分のことだけを考えるのではなく、みんなのことを考えなければいけない。次に使う人のことを考えて、図書館の本を大切に読んだり、遊具をきちんと片付けたりしようという気持ちをもっている。

1年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
C 規則の尊重	学活	校外学習でのマナーについて考えよう		
	道徳	黄色いベンチ		
	体育	ボール投げ		
	学活	みんなで使う物の約束		
	日常	あいさつ		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除の様子		
	日常	教室の過ごし方		
	日常	図書館の使い方		
	日常・家庭	遊具の使い方		
	日常・家庭	トイレのスリッパや靴の整頓		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 C 規則の尊重

道徳の授業

- ・たかしとてつおの行動について考え、発表することができたか。
- ・自分の生活を振り返り、みんなが気持ちのよい生活をするために、どうするとよいか考えることができたか。

日常生活(あいさつ、整理整頓など)

- ・みんなが気持ちよく過ごせるように、みんなで使う物を大切にしたり、マナーを守ったりする。